

米子市まちづくりビジョン

(第4次米子市総合計画及び第2期米子市地方創生総合戦略)

総括概要版

目次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	計画の構成について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3	基本目標及び基本方向に係る総括について・・・・・・・・	2
(1)	交通基盤の充実と人が集うまちづくり・・・・・・・・	3
(2)	市民が主役・共生のまちづくり・・・・・・・・	4～5
(3)	教育・子育てのまちづくり・・・・・・・・	6～7
(4)	地産外商・所得向上のまちづくり・・・・・・・・	8～10
(5)	歴史と文化に根差したまちづくり・・・・・・・・	11
(6)	スポーツ健康まちづくり・・・・・・・・	12～13
(7)	災害に強いまちづくり・・・・・・・・	14～15

1 はじめに

本市では、令和2年3月に「米子市まちづくりビジョン（第4次米子市総合計画及び第2期米子市地方創生総合戦略）」（以下「まちづくりビジョン」という。）を策定し、各施策を推進しています。

このたび令和6年度末に基本計画の期間が終了することに伴い、新たなまちづくりビジョンを策定します。計画の策定に先立ち、まちづくりビジョンにおける市政の柱となる7つのまちづくりの基本目標ごとに令和2年度から令和5年度までの4年間の取組の成果等を取りまとめました。

2 計画の構成

米子市まちづくりビジョンは、基本構想及び基本計画で構成しています。

(1) 基本構想（計画期間：令和2（2020）年度～令和11（2029）年度）

市政推進の長期的な展望に立ちながら、「市の将来像」とその実現のための市政の柱となる目標を「まちづくりの基本目標」として掲げ、具体的に取り組む施策を「まちづくりの基本方向」として体系的に示します。

(2) 基本計画（計画期間：令和2（2020）年度から令和6（2024）年度）

基本構想で掲げた「市の将来像」、「まちづくりの基本目標」を実現するために取り組む施策について、今後、特に重点的に取り組む視点から「まちづくりの基本方向」ごとに現状と課題を整理し、「計画目標」、「主な取組」及び「数値目標」を示します。

《市の将来像》

『住んで楽しいまち よなご』
～新商都米子の創造に向けて～

《まちづくりの基本目標》

- 1 交通基盤の充実と人が集うまちづくり
- 2 市民が主役・共生のまちづくり
- 3 教育・子育てのまちづくり
- 4 地産外商・所得向上のまちづくり
- 5 歴史と文化に根差したまちづくり
- 6 スポーツ健康まちづくり
- 7 災害に強いまちづくり

3 基本目標及び基本方向に係る総括

令和2年度から令和5年度までの基本方向の実施状況の評価及び数値目標の取りまとめを行います。基本方向の実施状況及び数値目標の達成状況に基づき、7つの基本目標ごとの評価を行うとともに、今後の方向性を検討します。なお、評価については以下の考え方に基づいて行います。

【評価の考え方】

- ・基本方向の評価は、米子市地方創生有識者会議（米子市まちづくりビジョンの取組状況の検証）において実施している評価を基に各所管課が自己評価を行います。なお、基本方向の取組が複数の課にまたがる場合は低い評価を採用します。

(区分)	A 取組が予定どおり（または予定以上）に進捗しており、このまま取組を継続するもの。目的を達成したもの。
	B 一定の進捗はあったが更なる進捗を図る必要があるもの。取組を行っているものの予定どおり進捗していないもの。
	C 取組を(ほぼ)実施できなかったもの。進捗が大幅に遅れているもの。あるいは、中止（休止）したもの。

区分ごとの評価総数

A・・・26

B・・・24

C・・・0

（全50項目）

【まちづくりの基本方向における評価について】

全50項目中、52%にあたる26件がA評価、
48%にあたる24件がB評価、C評価は0件となっており、全体的に進捗が図れている。

(1) 交通基盤の充実と人が集うまちづくり

まちづくりの基本方向	評価
1-1 広域的な交通基盤の整備	B
1-2 地域公共交通体系の確立	B
1-3 調和のとれた土地利用の実現	A
1-4 米子駅周辺整備の推進	A
1-5 中心市街地のにぎわい創出	B

指標名	策定時	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	H30	R2	R3	R4	R5	R6
米子空港発着の国内線の年間利用者数（人）【1-1】	589,505	137,641	198,952	398,790	535,299	645,000
米子市循環バス「だんだんバス」の年間利用者数（人）【1-2】	129,933	93,948	95,984	100,737	108,305	137,924

主な取組内容
「交通基盤の充実と人が集うまちづくり」の分野については、以下の取組を行い、まちのコンパクトプラスネットワークを推進し、人が集まり活発な交流が行われるまちづくりを進めることができた。 ○米子-境港間を結ぶ高規格幹線道路の事業化における要望活動 ○公共交通の利用促進及び今後のあり方の検討 ○規制緩和等による新たな土地利用の推進 ○米子駅南北自由通路（がいなロード）の開通と駅南広場等の整備 ○ウォーカブル推進事業の実施

今後の方針
引き続き、米子鬼太郎空港の利用促進、高規格幹線道路の整備促進、公共交通の再編、中心市街地のにぎわい創出を図るほか、ウォーカブル推進事業等により、まちなかを「車中心」から「公共交通と歩行者中心」の空間へと転換し、人々が集い・憩い・多様な活動を繰り広げられる、「歩いて楽しいまちづくり」をめざす。 また、今後はウォーカブル推進事業等によるソフト事業の推進、中海・錦海かわまちづくり計画による米子港整備の円滑な実施、中心市街地のキーパーソン等の発掘、支援及び鳥取大学医学部附属病院の再整備に向けた連携体制の構築等について取組を強化していく必要がある。

(2) 市民が主役・共生のまちづくり

まちづくりの基本方向	評価
2-1 市民参加及び民間事業者等との連携協力	B
2-2 公民館を拠点とした地域のまちづくりの推進	B
2-3 地域福祉活動の推進	B
2-4 障がい者（児）福祉の充実と共生社会の実現	B
2-5 互いの人権を尊重し合うまちづくりの推進	A
2-6 男女共同参画社会の形成	A
2-7 多文化共生社会の実現	B
2-8 鳥取大学医学部及び米子工業高等専門学校等との連携	A
2-9 国県・他自治体との連携協力	A
2-10 Society5.0の実現に向けた技術の活用	A

指標名	策定時	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	H30	R2	R3	R4	R5	R6
公民連携対話窓口の活用による連携事業の実施本数《累計》【2-1】	-	2	3	5	7	10
公民館の年間利用者数-【2-2】	318,302	184,244	200,527	231,193	258,325	360,000
推進会議の設置数《累計》【2-3】	0	0	1	1	1	7
施設入所中の障がいのある人の地域生活への移行《累計》【2-4】	-	0	0	3	3	13
成年後見制度利用の年間申立件数 ※高齢者に係る申し立てを含む【2-4】	49	26	35	23	13	78
審議会委員に占める女性の割合【2-6】	28.0	28.0	29.6	33.2	34.5	40.0
とっとり電子申請サービス（米子市）の可能な手続数 ※申請期間の終了したものを含む、延べ数【2-10】	-		69	184	252	150

主な取組内容

「市民が主役・共生のまちづくり」の分野については以下の取組などにより、住み慣れた地域の中で安心して暮らせるまちづくりを進めることができた。

- 企業版ふるさと納税（地方応援税制）の活用
- 公民連携対話窓口「いっしょにやらいや」の活用による民間企業等との連携促進
- 公民館を拠点としたまちづくりの推進
- 総合相談支援センター「えしこに」の開設による相談支援体制の充実
- 東草市（友好都市）及び保定市（姉妹都市）との記念事業開催による関係の強化
- 近隣市町村とのスケールメリットを生かした広域連携の促進
- マイナンバーカードの普及及びとっとり電子申請サービスの拡充

今後の方針

引き続き、誰もがつながりを持って支え合う共生のまちをめざし、障がい者の支援体制の強化、人権教育の推進、男女共同参画の推進を図る。

また、今後は地域と行政が協力する公民館を拠点としたまちづくり、民間事業者等の連携、「えしこに」の相談支援体制の更なる充実、外国人住民の実態やニーズを把握した適切な生活支援、地域社会におけるDXの推進等を強化していく必要がある。

(3) 教育・子育てのまちづくり

まちづくりの基本方向	評価
3-1 在宅育児支援の充実	A
3-2 待機児童の解消と子育て支援の充実	A
3-3 子どもの特性や発達に合わせた適切で切れ目ない支援	A
3-4 学校教育の充実	A
3-5 学校施設の整備・充実	A
3-6 児童・青少年の健全育成	B
3-7 ふるさと教育の推進	A

指標名	策定時	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	H30	R2	R3	R4	R5	R6
6 か月健康診査対象者の安全確認の把握率 【3-1】	99.5	100	100	100	100	100
1 歳 6 か月健康診査対象者の安全確認の把握率 【3-1】	99.4	100	100	100	100	100
3 歳健康診査対象者の安全確認の把握率 【3-1】	99.7	100	100	100	100	100
保育所等入所待機児童数 【3-2】	49	2	0	0	0	0
なかよし学級及び放課後児童クラブの利用定員数 【3-2】	1,793	1,917	2,092	2,205	2,270	2,241
児童文化センターの年間利用者数 【3-6】	174,764	102,583	119,395	129,928	148,600	190,000

主な取組内容

「教育・子育てのまちづくり」の分野については以下の取組などにより、安心して子どもを生み育てることができるまちづくりを進めることができた。

- こども総本部を中心とした子育て世代包括支援体制の構築
- 公立保育園の統合・建て替え
- 小中学校でのネットワーク環境整備、デジタル教材及びサポートアプリの導入
- 放課後子ども教室、子ども食堂などの整備による新たな子どもの居場所づくり

今後の方針

引き続き、未来のまちづくりを担う子どもたちが健やかでたくましく育つまちをめざし、保育施設及び小・中学校との連携強化等による子どもの特性や発達に合わせた適切で切れ目のない支援や学校教育での英語に触れる機会の創出、体力向上の取組、学校施設の老朽化への適切な対応を行うとともに、学校給食、学校訪問及びフィールドワークを通じたふるさと教育の推進を継続して実施していく必要がある。

また、今後は放課後児童クラブの施設整備、子ども食堂、放課後子ども教室等の地域で子どもたちが安心して過ごせる居場所を増やすなど保護者・子どもの様々なニーズに対応していく。

(4) 地産外商・所得向上のまちづくり

まちづくりの基本方向	評価
4-1 地元企業の振興と地域産業の活性化	A
4-2 成長産業の育成と新産業の創出	A
4-3 企業誘致の推進	A
4-4 雇用の安定と確保	A
4-5 皆生温泉のまちづくり	B
4-6 地域資源を活用した観光施策の推進	A
4-7 広域連携による観光振興	B
4-8 インバウンド対策の推進	B
4-9 次世代につなぐ農業の推進	B
4-10 農業基盤整備の推進	A
4-11 地域特性をいかした漁業の振興	B
4-12 シティプロモーションの推進と関係人口の拡大	A
4-13 移住定住の促進	B

指標名	策定時	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	H30	R2	R3	R4	R5	R6
ビジネスマッチング商談会新規エントリー企業数《累計》 【4-1】	-	9	16	21	35	100
年間新規創業件数 【4-1】	36	59	56	50	120	60
地域内の未利用エネルギーを活用した新事業の創出件数《累計》 【4-2】	-	0	1	1	1	1
市内企業の産学官連携事業数《累計》 【4-2】	-	5	10	16	20	10
誘致企業数（誘致企業による増設を含む）《累計》 【4-3】	-	1	6	9	11	10

指標名	策定時	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	H30	R2	R3	R4	R5	R6
就職情報発信事業利用者数《累計》 【4-4】	-	269	355	405	538	500
情報提供、就職相談から求人企業への就職に至った件数《累計》 【4-4】	-	18	46	73	91	100
職業能力の開発及び向上に必要な講座等の受講費用等の補助件数《累計》 【4-4】	-	0	26	176	400	329
皆生温泉宿泊客数 【4-5 4-7】	392,548	264,284	238,782	337,737	408,391	450,000
市内の年間外国人宿泊客数（米子市観光課調べ） 【4-7 4-8】	50,094	5,720	5,666	4,868	15,955	105,000
多様な担い手の数（新規経営体の数）《累計》 【4-9】	8	13	18	24	30	25
再生可能な荒廃農地の面積 【4-9】	114	89	44	32	26	39
農地の流動化面積 【4-9】	766	779	873	914	931	916
6次産業化の新規取組件数《累計》 【4-9】	-	0	0	0	0	10
年間漁業生産・販売金額（千円） 【4-11】	311,000	251,799	220,441	247,772	275,800	320,000
各課による SNS での情報発信件数《累計》 【4-12】	-	177	649	1,234	1,783	2,500
メールマガジン登録者数 【4-12】	-	14,037	15,317	15,766	16,861	17,000
米子ヨネギーズクラブ会員数 【4-12】	-	359	431	670	1,304	1,500
県外からの移住者数《累計》 【4-13】	457	463	1,054	1,415	1,919	2,500
婚活イベント参加者の成婚数《累計》 【4-13】	-	0	0	1	1	10

主な取組内容

「地産外商・所得向上のまちづくり」の分野については、以下の取組などにより、地域資源や地域産業を活かしたまちづくりを進めることができた。

- 商談会の機会の創出
- 地域産品での新商品開発の支援
- 海外展開等に係る中小企業等の支援
- 未利用エネルギーを活用した新産業の創出
- 企業誘致の実現
- 皆生温泉、米子城跡及び淀江エリア等を活用した観光地域づくり
- 白ネギ、柿及び梨を中心としたブランド力の強化
- ほ場整備等による荒廃農地の抑制
- 人口種苗放流等の漁業生産性向上に向けた支援
- メルマガでの情報発信による関係人口の拡大

今後の方針

引き続き、ビジネスチャンスを広げ、地域全体で所得の向上を図り、稼げるまちをめざすため、地域の雇用・経済を支える中小企業等への支援や雇用所得の増大に向けた産業支援策の実施、受入環境整備の充実による国内外からの観光誘客の促進を図る。

また、今後はあらゆる分野における人手不足の解消、在職者及び離職者のスキルアップや再就職支援、脱炭素にも資する荒廃した農地への太陽光発電設備設置、皆生温泉エリア内における消費拡大に向け必要となるインフラ整備の検討、関係機関と連携した皆生港の整備、米子市への移住・定住の促進について取組を強化する必要がある。

(5) 歴史と文化に根差したまちづくり

まちづくりの基本方向	評価
5-1 米子城跡の保存・活用・整備と魅力発信	B
5-2 芸術文化活動の推進	B
5-3 淀江地域における歴史・地域資源の活用	B

指 標 名	策定時	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	H30	R2	R3	R4	R5	R6
米子市公会堂・米子市文化ホール・ 米子市淀江文化センター・米子市美術館の年間利用者数の合計 【5-2】	403,172	157,802	190,989	205,666	296,051	452,000
伯耆古代の丘エリアの観光施設、歴史文化施設の年間入込み客数 【5-3】	18.0	14.3	16.6	15.1	16.6	20

主な取組内容
「歴史と文化に根差したまちづくり」の分野については、以下の取組などにより、本市の歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めることができた。 ○発掘調査に基づいた史跡整備 ○石垣ライトアップ、ダイヤモンド大山観望会、新年明けまして米子城等のイベント実施 ○米子城VR導入など米子城跡の魅力向上の促進 ○文化施設等を活用した芸術鑑賞の機会提供、施設周辺の賑わい創出 ○淀江エリアにおける地域資源を活用した取組の充実

今後の方針
引き続き、本市の歴史・文化の価値や魅力を多くの方と共有し、にぎわいがある心豊かに暮らせるまちをめざし、文化施設の整備・米子城跡及び淀江エリアの史跡などの整備はもとより、これらを最大限に活用した情報発信を行うことでにぎわい創出に繋げる。 また、今後は米子城跡の保存整備の円滑な事業進捗を図るため、事業継続に向けた学芸員及び事業費の確保、各整備工事の進捗管理の強化、淀江エリアの地域資源の更なる活用を図っていく必要がある。

6 スポーツ健康まちづくり

まちづくりの基本方向	評価
6-1 すべての人がスポーツに親しむことのできる環境づくり	B
6-2 スポーツを通じた地域の活性化	B
6-3 生活習慣病予防の推進	A
6-4 介護予防・フレイル対策の推進	B

指 標 名	策定時	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	H30	R2	R3	R4	R5	R6
スポーツ施設及び学校体育施設の年間延べ利用者数（人） 【6-1】	1,047,861	858,940 （体育施設 503,934 学校開放 355,006）	858,302 （スポーツ 512,267） （学校開放 346,035）	865,634 （スポーツ 552,688） （学校開放 312,946）	968,831 （スポーツ 591,386） （学校開放 377,445）	1,200,000
市が関わる主要なスポーツーリズムの3大会の参加者数（人） ①全日本トライアスロン皆生大会 ②皆生・大山 SEA TO SUMMIT ③中海オープンウォータースイム 【6-2】	1,508 （①1,071 ②272 ③165）	中止	中止	1,147 （①1,014 ②中止 ③133）	1,391 （①1,079 ②149 ③163）	1,750 （①1,200 ②300 ③250）
市民体育祭の参加者数（人） 【6-2】	1,477	162	735	655（一部中止）	807	1700
メタボリック症候群の該当者及び予備群の割合 【6-3】	18.8	20.2	20.9	21.4	21.0	16.2
	11.8	12.4	12.4	11.6	9.7	10.6
65 歳以上の高齢者で介護保険の認定を受けている人の割合 【6-4】	4.8	5.0	5.0	5.0	4.9	4.3
	35.2	34.8	34.3	34.3	33.6	34.7
健康づくり及び介護予防に取り組む地域活動の拠点（会場）数 【6-4】	141	135	146	150	161	161

主な取り組み内容

スポーツ健康まちづくりの分野については、以下の取組などによりスポーツと健康づくりによる健康長寿のまちづくりを進めることができた。

- 地域住民のスポーツ利用のため小中学校の体育館及び屋外グラウンド等の開放
- 各種スポーツ大会、教室の実施
- 健康増進にかかる普及活動
- フレイル予防の全市的な展開
- 認知症サポーターの養成

今後の方針

引き続き、人生１００年時代に誰もがずっと元気で健康に暮らせるまちをめざし、特定健診・特定保健指導の実施率向上に向けた取組の促進、医療リテラシーの向上、各種スポーツイベントの実施、米子アリーナの整備、認知症に関する地域における具体的な活動と支えあいの推進等に取り組む。

また、今後は学校施設のスポーツ利用促進を図るため、オンライン予約システムによる使用料のキャッシュレス決済化の本格運用、健康寿命の延伸のメリットをより実感できる意識改革に資する活動の促進、フレイル予防への関心・意識・自覚を高められるような施策の推進、認知症や家族の情報交換の機会の提供、認知症サポーターの積極的な参画、介護支援ボランティア制度との連動に向けた取組を強化する必要がある。

7 災害に強いまちづくり

まちづくりの基本方向	評価
7-1 公共インフラ施設の整備	A
7-2 総合的な住宅政策の推進	B
7-3 良質な水源開発と災害に強い施設・管路の整備	A
7-4 総合的な生活排水対策の推進	B
7-5 危機管理体制の充実強化	A
7-6 地域防災力の充実強化	B
7-7 原子力災害対策の推進	A
7-8 環境保全活動の推進	A

指 標 名	策定時	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	H30	R2	R3	R4	R5	R6
都市計画道路の整備率 【7-1】	86	88	88	88	88	91
空き家バンクへの登録件数《累計》 【7-2】	-	4	11	18	28	50
特定空家等の改善件数《累計》 【7-2】	-	13	22	30	43	50
水源の更新《累計》 【7-3】	-	0	1	1	1	2箇所以上
管路耐震化率 【7-3】	16.8	20.2	20.9	21.6	22.3	20%以上
汚水処理人口普及率 【7-4】	89.5	90.9	91.8	92.5	93.0	93.7
公共下水道管きょ調査延長《累計》 【7-4】	-	7.4	12.5	14.6	22.7	15.0
公共下水道ポンプ場、処理場の各施設改築箇所数《累計》 【7-4】	-	72	161	191	258	300
消防団員数 【7-6】	511	531	527	513	487	533
自主防災組織の育成補助金交付実績割合 【7-6】	44	18	15	22	27	60

指 標 名	策定時	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	H30	R2	R3	R4	R5	R6
防災講座等への年間職員派遣件数 【7-6】	81	37	58	39	67	100
住民説明会等の年間開催回数 【7-7】	25	16	27	23	25	25
市域から排出される CO2 排出量 【7-8】	(H28) 1,138,000	(H30) 1,045,000	(R1) 990,000	(R2) 882,000	(R3) 943,000	823,000
1人1日あたりのごみ排出量 【7-8】	951	905	905	885	860	884
中海・宍道湖一斉清掃（米子会場） の参加人数 【7-8】	(R1) 1,163	409	400	1,069	1,256	1,300

主な取組内容
災害に強いまちづくりの分野については、以下の取組などにより、快適な生活環境の整備、豊かな自然環境の保全を促進し、安心して暮らせるまちづくりを進めることができた。 ○公共インフラ整備に係る財源の確保 ○空き家・空き地対策の拡充 ○公共下水道の管きよの整備や合併処理浄化槽の普及促進 ○消防団員の能力向上・強化に向けた定期訓練の実施 ○UPZ 内の地区住民が参加する原子力防災訓練と参加者を対象に住民説明会の開催 ○中海・宍道湖一斉清掃 ○ヌカ力発生抑制対策の支援

今後の方針
引き続き、快適で災害に強い安心・安全なまちづくりをめざし、特定空家等の改善のため所有者等に対し助言・指導等の実施、水道の管路耐震化率の向上、下水道施設設備の改築・更新による延命化、設備、資機材などの整備による消防団員の安全確保と機能充実強化、鳥取県・境港市と連携した原子力発電所の安全対策、豊かな自然環境を有する生活環境保全などに取り組む。 また、今後は合併処理浄化槽への転換、公共下水道使用者と浄化槽使用者の負担の平準化、国や県から示される知見等を反映した地域防災計画の見直し、若年層への消防団活動の広報・理解促進による消防団員の確保について取組を強化する必要がある。